

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560781

研究課題名(和文) 明治期日本建築界の満洲調査における歴史的及び現代的意味

研究課題名(英文) A Study on the Historical and Modern Meaning of Japanese Architects' Manchuria Field works in Meiji

研究代表者

奥富 利幸 (OKUTOMI, Toshiyuki)

近畿大学・建築学部・教授

研究者番号：70342467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、伊東忠太、大江新太郎、佐野利器、大熊喜邦などをはじめ、明治期の日本人が実施した満洲建築調査を体系的に整理し、再調査をした。そして、1909年に伊東忠太が提出した進化主義の思想と中国調査の関連、大江新太郎の瀋陽故宮の調査とその後の進化主義作品との関連、明治期の調査記録と現在の遺存状況を比較し、歴史記録の現代における価値などを明らかにした。研究成果を論文や著書に留まらず、日本と中国及び欧米の建築史研究者による国際シンポジウムを主催し、20世紀初頭の日本人満洲建築調査の現代的意義を国際的な円卓で再検討した。

研究成果の概要(英文)：This research focused on Japanese Architects' Manchuria fieldworks in Meiji era, especially the Manchuria survey had been done by Chuta Ito, Shintaro Ohe, toshigata Sano, Yoshikuni Okuma. In this project we systematize the Meiji era's fieldwork and have compared the historical record with the building's present condition. The research Achievements are not only the papers and books but also the symposium which the Japanese and Chinese scholars exchange the thinking to make the Japanese Architects' Manchuria Fieldwork's historical and modern meaning clearly.

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：近代 満洲 伊東忠太 大江新太郎 北京 瀋陽

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成26年4月28日現在

機関番号：34419
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2011～2013
 課題番号：23560781
 研究課題名（和文）明治期日本建築界の満洲調査における歴史的及び現代的意味
 研究課題名（英文）A Study on the Historical and Modern Meaning of Japanese Architects' Manchuria Fieldworks in Meiji Era
 研究代表者 奥富 利幸
 （OKUTOMI Toshiyuki）
 近畿大学・建築学部・教授
 研究者番号：70342467

研究成果の概要（和文）：

本研究では、伊東忠太、大江新太郎、佐野利器、大熊喜邦などをはじめ、明治期の日本人が実施した満洲建築調査を体系的に整理し、再調査をした。そして、1909年に伊東忠太が提出した進化主義の思想と中国調査の関連、大江新太郎の瀋陽故宮の調査とその後の進化主義作品との関連、明治期の調査記録と現在の遺存状況を比較し、歴史記録の現代における価値などを明らかにした。研究成果を論文や著書に留まらず、日本と中国及び欧米の建築史研究者による国際シンポジウムを主催し、20世紀初頭の日本人満洲建築調査の現代的意義を国際的な円卓で再検討した。

研究成果の概要（英文）：

This research focused on Japanese Architects' Manchuria fieldworks in Meiji era, especially the Manchuria survey had been done by Chuta Ito, Shintaro Ohe, toshigata Sano, Yoshikuni Okuma. In this project we systematize the Meiji era's fieldwork and have compared the historical record with the building's present condition. The research Achievements are not only the papers and books but also the symposium which the Japanese and Chinese scholars exchange the thinking to make the Japanese Architects' Manchuria Fieldwork's historical and modern meaning clearly.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	3,900,000	1,170,000	5,070,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目 建築史・意匠

キーワード：近代、満洲、伊東忠太、大江新太郎、北京、瀋陽

1. 研究開始当初の背景

近代では、日本人により満洲を含む中国、朝鮮建築調査が数多く行われ、伊東忠太や関野貞を筆頭に史学的的に検討されてきた。一連の調査で、満洲調査は、日本人が行った中国調査の中でも地域性があり、歴史的、学術的に解明する意義が特に大きいと考えた。満洲は中国文化の周縁部で、1930年代に中国人の建築史研究組織が発足した後も、中国人による満洲建築調査がされておらず、20世紀初頭の日本人満洲建築調査は現在でもその記録の貴重性は失われていない。さらに、これらの調査データを現在の歴史的建造物と照合すれば、非漢族文化圏の満洲建築史を再構築する糸口が見つかる可能性がある。つまり、中国建築史の構図を多元化するという現代的課題も含む研究課題である。

2. 研究の目的

本研究では、明治期の建築界が行った満洲調査を研究対象とし、調査資料と調査対象の歴史的建造物を照合しながら、調査の歴史的、学術的な意味に関して、次の点を明らかにする。

- (1) 明治期の日本建築界における中国調査の中での満洲調査の位置付けを明らかにする。
- (2) 満洲調査を明治期の日本建築界の動きや他の中国調査と比較、分析して、相互の影響関係を明らかにする。
- (3) 満洲調査の対象となった歴史的建造物を、現地で再調査することによって、その史料価値を明らかにする。
- (4) 伊東忠太と大江新太郎の設計活動と関連させて考察し、満洲調査の影響を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、まず明治期の日本人研究者が調査した歴史的建造物を再調査し、明治期の調査時と現状が比較できるリストを作成し、それを後の世代の村田治郎や伊藤清造などの日本人による調査と戦後に中国人が行った調査の各結果を収集して、総合的な調査結果により、満洲の歴史的建築物の全体像を描き出す。さらに、伊東忠太や大江新太郎など、設計を手がけた研究者の作品を整理して、その設計手法と満洲調査の関連を分析する。

4. 研究成果

日本人の満洲調査が最も早い基礎的データであり、のちの中国建築史を構築する際の基礎になったことを明らかにし、同時に、満洲調査と伊東忠太の世界建築体系における認識の形成との関連性及び大江新太郎の進化主義様式の設計作品との関連性を明らかにした。また、本研究では、満洲調査の記録に基づき、新たな建築史、都市史研究を展開させた。更に、満洲調査史料を元に、調査対象の歴史的建造物の現状を調査し、現存していれば損壊状況を確認し、保存のための基礎的情報を整理したことで、

戦前の調査成果を現代の歴史的建造物の保存に活用する仕組みを構築した。最終年度に、中国、日本及び欧米の建築史研究者による国際シンポジウムを主催し、日本人の満洲建築調査の歴史的、現代的な意味を国際的な円卓で再検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

①包慕蒞、蒙古帝国之後的哈刺和林木構仏寺建築（モンゴル帝国以後のハラホリン木造仏寺建築）、中国建築史論叢刊、第8輯、査読有、中国建築工業出版社、北京、2013、pp172-198

②包慕蒞、从游牧文明的视角重探元大都的都市规划：从哈刺和林到元大都、中国建築史学会2013年大会論文集、査読有、寧波、2013、pp655-667

③奥富利幸、包慕蒞、大江新太郎の瀋陽故宮調査とその方法、中国近代建築研究と保護（八）、査読有、巻8、清華大学出版社、北京、2012、pp718-731

④包慕蒞、伊東忠太の建築論と中国調査、中国近代建築研究と保護（八）、査読有、巻8、清華大学出版社、北京、2012、pp705-717

⑤包慕蒞、中国文物制度における近代建築の評価について、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、建築歴史・意匠、査読無、2011、pp909-910

⑥包慕蒞、文理融合による租界研究の実践：大里浩秋・貴志俊彦・孫安石編著『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』を読む、査読無、中国研究月報 65(6)、書評、2011、pp25-31

[学会発表] (計8件)

①包慕蒞、元の大都の土地計画と“胡同制”、中国古代建築史国際フォーラム、2013年12月7日、近畿大学

②奥富 利幸、明治期日本人の中国建築フルードワークとその研究方法、中国古代建築史国際フォーラム、2013年12月7日、近畿大学

③包 慕萍、遊牧文明の視点から元の大都の都市計画を読み直す、寧波保国寺大殿建成1000周年学術研究会兼中国建築史学会、2013年8月23日、寧波六楼金色大庁

④奥富 利幸、伊東忠太と大江新太郎の建築進化論の再考：満洲建築調査から、日本建築学会、2013年9月1日、北海道大学

⑤包 慕萍、从清朝统治版图考察中国城市与建筑近代化过程（清朝の統治版图から中国都市・建築の近代化過程を見る）、2013中国近代建築与都市史研究方法研討会、2013年6月16日、上海、同済大学

⑥包 慕萍、考古新発見によるカラコルムの都市空間構造の再考、中央大学人文科学研究so公開講演会（招待講演）、2013年1月23日、中央大学

⑦BAO Muping, Wooden Buddhist temples in Karakorum during and post the Mongol Empire, Senior Academics Forum on Ancient Chinese Architectural History, 2012年10月27日、Australia, Melbourne University,

⑧包 慕萍、近代アジア建築思想史の試み：伊東忠太の建築論と中国調査、第13回中国近代建築史年会、2012年7月19日、台湾、金門大学

〔図書〕（計5件）

①玉井 哲雄、包 慕萍他共著、山川出版社、アジアからみる日本都市史、2013、336（234-265）

②尾崎 雄二郎、竺沙 雅章、戸川 芳郎、包 慕萍他共著、大修館書店、中国文化史大事典、2013、1506（70）

③藤森 照信、包 慕萍、柏書房、歴史遺産 近代建築のアジアⅡ、2013、264（036-257）

④藤森 照信、包 慕萍、柏書房、歴史遺産 近代建築のアジアⅠ、2013、272（234-265）

⑤奥富 利幸、風媒社、大江新太郎の満洲調査－近代日本の建築の将来を見据えて（危機における共同性）、2012、252（102-135）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥富 利幸 (OKUTOMI Toshiyuki)
近畿大学・建築学部・教授
研究者番号 70342467

(2) 連携研究者

包 慕萍 (BAO Muping)
東京大学・生産技術研究所・協力研究員
研究者番号 40536827